

(14) もとよし福祉用具貸与事業所

【概要】福祉用具の有効活用による自立支援と介護者の負担軽減による介護機能の充実強化に努め、安心して在宅生活が継続できるようにサービスを提供しました。

【事業実績】

月	要支援1	要支援2	小 計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小 計	合 計
4 人	5	11	16	13	11	11	13	13	61	77
5 人	7	8	15	14	12	11	13	14	64	79
6 人	7	8	15	14	12	11	10	13	60	75
7 人	6	8	14	13	11	9	12	11	56	70
8 人	5	10	15	13	13	9	11	12	58	73
9 人	4	11	15	13	14	9	10	14	60	75
10 人	4	12	16	10	14	12	9	14	59	75
11 人	4	12	16	11	14	12	10	13	60	76
12 人	4	14	18	13	14	12	9	14	62	80
1 人	4	14	18	13	16	13	8	13	63	81
2 人	4	14	18	15	18	13	8	12	66	84
3 人	4	15	19	13	19	11	11	12	66	85
計 人	58	137	195	155	168	133	124	155	735	930
前年度 人	68	155	223	141	161	147	201	155	805	1,028

【研修・会議等参加状況】

月 日	主な会議・研修会等	開催場所
平成29年7月21日	介護保険に関する指定介護サービス事業所等集団指導	気仙沼保健福祉事務所
平成29年10月12日	防災研修プログラム第1回「在宅療養者の防災対策」	本吉保健福祉センター「いこい」
平成29年11月22日	防災研修プログラム第2回「地域で行っている防災対策の取り組み」	本吉保健福祉センター「いこい」
平成29年12月1日	介護サービスの質の向上に関する市町村担当者、事業所管理者等研修	仙台市
平成29年12月13日	防災研修プログラム第3回「事業所で取り組む在宅療養者の防災支援」	本吉保健福祉センター「いこい」
平成30年3月19日	介護保険に関する指定介護サービス事業所等集団指導 事業所内会議：定例会議及び伝達研修（随時開催）	気仙沼保健福祉事務所

【成果】福祉用具に関する相談に懇切丁寧な対応を心掛けるとともに、介護保険以外の独自ベッドを確保し、貸出実績を積み重ねることで、軽度者の段階から関わりづくりができました。さらには、新たな福祉用具取扱業者との提携により、取扱い商品の増加や業務委託費のコスト削減と利用者確保に向けて取り組みました。

(平成29年度 介護報酬目標達成度(当初予算対比) 79.2% 前年度 97.1%)

【課題】昨年度と比較しても利用者数及び収入面で減少傾向にあり当初計画した目標に達していない状況が継続しており、利用者確保が課題となっています。

【今後の取組】社協職員として利用者の生活全般を支援していけるよう質の向上を継続的に行うとともに、利用者確保に向けた事業周知等を徹底していくことや福祉用具の取り扱い品目の増加等に取り組んでいきます。また、健全な経営を目指すため、業務委託費等のコスト削減にも取り組み収支バランスを安定させていきます。

【決算】事業活動収入 10,935,216円
その他の活動収入 2,081,000円
(運用基金事業、施設整備基金事業からの繰入)

事業活動支出 12,677,178円
施設整備等による支出 139,440円
その他の活動による支出 164,088円
当期資金収支差額 35,510円

13. 老人福祉センターの管理事業

(1) 気仙沼市老人福祉センター「福寿荘」

【概要】気仙沼市老人福祉センター条例及び指定管理に係る基本協定書に基づき、各種相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上、老人クラブの活動及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与できる体制の充実に努めました。

【事業実績】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
館内	開館日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21	244
	*集い・教室・講座													
	回数	27	25	30	27	27	27	28	26	29	27	29	27	329
	人数	766	736	834	711	640	757	664	702	725	639	744	654	8,572
	福寿荘行事													
	回数	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0	1	0	7
	人数	0	0	0	0	23	16	344	245	0	0	24	0	652
	奉仕活動													
	回数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	人数	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	31
	施設実習・見学													
	回数	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	1	1	8
	人数	0	0	0	0	17	18	0	0	0	0	47	47	129
	その他													
	回数	7	6	9	6	7	8	7	8	6	5	4	7	80
	人数	133	130	186	115	119	127	127	133	112	82	96	142	1,502
館外	計	回数	34	31	39	34	38	39	37	36	32	35	35	425
	人数	899	866	1,020	857	799	918	1,135	1,080	837	721	911	843	10,886
	*移動福寿荘													
	回数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	人数	0	0	0	0	0	0	0	52	0	0	0	0	52
	市老連関係													
	回数	2	2	4	0	2	3	3	1	1	2	4	0	24
	人数	20	74	243	0	92	38	60	61	12	11	170	0	781
	関係団体													
	回数	2	1	4	1	3	1	0	2	1	1	2	4	22
	人数	23	6	48	8	75	12	0	15	8	6	51	23	275
	計	回数	4	3	8	1	5	4	3	4	2	3	6	47
	人数	43	80	291	8	167	50	60	128	20	17	221	23	1,108
合計	回数	38	34	47	35	43	43	40	40	37	35	41	39	472
	人数	942	946	1,311	865	966	968	1,195	1,208	857	738	1,132	866	11,994
生きがいデイサービス (※再掲)	回数	27	25	30	27	27	27	28	27	29	27	29	27	330
	人数	766	736	834	711	640	757	664	754	725	639	744	654	8,624

【成果】趣味の集い活動及び独自講座並びに介護予防事業を継続して開催し、生きがいのある学習活動を推進しました。また、各集いの利用者が心身ともに健康的な生活を継続していくことができるように心のケアセンターや市高齢介護課はもとより、気仙沼支援・医療・福祉五団体の専門機関の協力をいただき、介護予防に関する普及啓発講座を開催し、多くの参加を得ました。

また、利用者の安全を確保するために、外回りの側溝の蓋を改修しました。

貸館利用者に対しては、情報提供や活動資機材の活用ができるように配慮するなど幅広い対応を行い多くの参加利用がありました。また、大島移動福寿荘「ユニカル大会」を開催した際には、市老連の専門部の協力をいただき多くの参加を得ました。

【課題】施設の老朽化対応が必要です。また、福寿荘独自講座開催に当たり、多様化するニーズに応えられるよう職員の資質向上が必要です。

【今後の取組】介護予防事業及び福寿荘独自講座の内容を充実させ、若年高齢者の利用促進の増加に努めるとともに、施設の環境整備等に迅速に対応し、来訪者にとって居心地の良い環境づくりに努めます。

【決算】事業活動収入 19,300,000円

事業活動支出 18,174,696円

その他の活動支出 559,728円

当期資金収支差額 565,576円

14. 市受託事業

(1) 気仙沼地区応急仮設住宅入居者等サポートセンター運営事業

【概要】 応急仮設住宅等において健康で安心できる暮らしができるように生活相談員・看護師等による相談支援や地域住民を含む交流活動、イベントを実施しました。

また、困難事例については、関係機関と連携しながら入居者が自立した生活が送れるよう支援しました。

【実績】

事業内容等	区 分	件数等	前年度	備 考
出張サポート	仮設住宅集会場等	2 カ所	13	他の仮設住宅集会場等での相談会の開催
	公民館等（借用）	12 カ所	6	仮設住宅集会場等以外での相談会の開催
	相談者数	288 人	234	出張サポート時の相談者数
交流支援事業	交流イベント（他団体共催含む）	112 回/カ所	114	お茶会・イベント等
	参加者数（延べ）	1,258 人	1,889	交流会への参加者人数
連携調整事業		97 回	159	地区別ミーティングやNPO/NGO連絡会等
仮設訪問	住宅団地数（延べ）	438 カ所	1,439	訪問した仮設住宅団地数
	戸数（延べ）	965 件	4,020	訪問した住宅団地内の戸数
	（内不在、延べ）	346 件	1,664	訪問したが不在（状況確認）
公営住宅訪問	住宅団地数（延べ）	30 カ所	70	訪問した公営住宅団地数
	戸数（延べ）	78 件	142	訪問した公営住宅団地内の戸数
	（内不在、延べ）	30 件	35	訪問したが不在（状況確認）
在宅（仮設以外）	戸数	25 件	18	みなし仮設等
	（内不在）	2 件	3	訪問したが不在（状況確認）
	住宅関係	57 件	91	住宅等の問題
相談件数	健康相談	519 件	595	身体的健康の問題
	精神的問題	3 件	5	PTSDなど精神的問題
	介護関係	4 件	4	介護保険等相談
	家庭関係	2 件	0	DVなど問題
	交通等	0 件	1	通院や買い物等の問題
	経済関係	2 件	1	経済的な問題
	交流	4 件	5	孤立や交流等の問題
	その他	132 件	60	上記以外の問題など
	合計	723 件	762	
研修会	内部研修	24 回	11	社協内部研修会実施
	外部研修	14 回	23	外部研修会への参加

【成果】 仮設住宅からの入居者退去が進んだことで自治会や親睦会が解散又は休止し、住宅内での活動が減少してきていますが、定期的な個別訪問による安否確認の継続や仮設集会所を開放しての仮設住宅入居者や地域住民との集いをボランティアセンターや他機関と連携しながら、交流活動が継続できるように支援しました。

【課題】 応急仮設住宅では約9割の方が転居され、現居住者の多くが土地区画整理事業完了待ちの方です。先に進まない状況の不安感を話される方が多く見られ、継続支援が必要です。また、既存地域住民と新たな居住者等の交流を進める「地域サロン活動」では、定期開催と併せ、地域の担い手づくりへの支援を行っていますが、これまでの習慣や地域性等もあり、新たなコミュニティづくりへの支援が課題となっています。

【今後の取組】

今後もきめ細やかな支援を継続します。また、研修を重ね専門的知識のスキルアップを図ります。また、地区支援者ミーティング等では関係機関と連携を密にし、新たな取り組みを行う際にも積極的に参加していきます。防犯を含めた見回り活動を行うことにより入居者や住宅の変化に応じて業務に取り組みます。

【決算】 事業活動収入 21,830,913円

事業活動支出 20,850,396円
 その他の活動による支出 980,517円
 当期資金収支差額 0円

(2) 気仙沼市「絆」再生事業

【概要】被災者と地域コミュニティとの繋がりを支援し、交流活動の実施や支援をするとともに、みなし仮設住宅、新たな住まいや地域等での孤立化の防止や見守り、関係機関への連絡、総合相談を実施しました。

【実績】

事業内容	区 分	件数等	備 考
交流事業	交流イベント(他団体共催含む)	152 回/ヶ所	お茶会・イベント等(仮設・地域)
訪問状況	戸数(延べ)	6,501 件	
継続訪問世帯数(見守り等)	仮設住宅	39 件	
	在宅・みなし等	503 件	
相談件数	住宅関係	9 件	住宅等の不具合等
	介護関係	4 件	介護に関する相談
	生活環境関係	14 件	
	交流・社会参加関係	57 件	交流希望・孤立の問題
	交通等関係	3 件	交通手段や時刻表
	精神的問題	0 件	心の問題
	隣人等関係	2 件	隣人トラブルなど
	健康面	3 件	体調面の心配
	物資関係	2 件	物資の問合せ
	軽微なお手伝い	13 件	相談員等スタッフが対応できる軽微な作業
	児童関係	0 件	児童サービスの問合せ
	障害関係	0 件	障害サービスの問合せ
	経済面	2 件	経済的な問題
	傾聴	9 件	不安や葛藤等の相談
	その他	27 件	上記以外の問題など
	合 計	145 件	
連携事業	民協定例会出席	136 回	12地区ごと月 1 回
	地区別支援者ミーティングやNPO/NGO連絡会等	295 回	地区別支援者ミーティング 毎月開催 NPO/NGO連絡会等毎週開催
各団体との連携調整	仮設住宅自治会長	53 回	原則全仮設訪問時に情報交換
	地域の自治会長や各種地域団体	940 回	随時連携・交流事業(イベント)の共催など
	行政・サポセン・友愛・復興協会・復興隊・NPO/NGO等と	随時	
研修会	内部研修	22 回	内部研修実施
	外部研修	18 回	外部研修会への参加

【成果】古町三区自治会において、駅前公営住宅入居者に対して入居後の生活不安を解消して貰えるように、駅前地区「くらしのマップ」の製作づくりと入居者への配布を兼ねて状況把握ができました。

応急仮設住宅団地においては、未だ居住されている方を訪問し、先行きの不安や健康面の相談等を受け、市担当課や関係団体などと情報の共有を図りながら、入居者を支援しました。

公営住宅及び防災集団住宅等では、交流会等の開催周知と併せ、状況の把握を図りました。

また、自治会設立に向けた住民懇談会では、地域住民からの要望や改善等の話し合いが行われ自治会設立準備委員会の立ち上げから設立まで市担当課と一体となり関わりました。

【課題】応急仮設住宅団地から転居が進みましたが、未だ居住されている世帯の情報共有を図り、市担当課も含め、住民に寄り添った支援が求められています。

災害公営住宅の住民と既存自治会の住民との相互交流については、既存の自治会の年度計画に沿った活動との調整など、コミュニティ融合支援策が求められています。

ています。

【今後の取組】公営住宅及び防災集団住宅等の活動や、自治会の課題等には側面的に寄り添った支援を行うとともに、地域の力を活かした課題解決方法を探ります。

市担当課も含め、各支援団体と情報の共有を図り、関連機関と連携の下、必要な支援を行います。

【決算】事業活動収入 79,505,646 円
その他の活動収入 717,657 円

事業活動支出 77,525,435 円
その他の活動支出 2,697,868 円
当期資金収支差額 0 円

(3) 気仙沼西地区高齢者相談室運営事業

【概要】災害公営住宅や防災集団移転の整備に伴い、被災した高齢者等の移転先での生活再建や自立生活を援助するため、巡回訪問により安否確認や見守り・声掛け・相談等を行う「生活援助員（LSA）」を配置し、安心して自立した生活を送れるように援助しました。

【実績】

事業内容等	区 分	件数等	備 考
災害公営住宅 巡回訪問	住宅数（延べ）	4 カ所	訪問した災害公営住宅団地数
	戸数（延べ）	3,106 件	訪問した戸数
	（内不在、延べ）	912 件	訪問したが不在（状況確認）
防災集団移転先 巡回訪問	住宅団地数（延べ）	2 カ所	訪問した防災集団移転先数
	戸数（延べ）	121 件	訪問した戸数
	（内不在、延べ）	30 件	訪問したが不在（状況確認）
応急仮設住宅 巡回訪問	住宅団地数（延べ）	5 カ所	訪問した応急仮設住宅団地数
	戸数（延べ）	73 件	訪問した戸数
	（内不在、延べ）	24 件	訪問したが不在（状況確認）
相談件数	住宅関係	139 件	住宅等の問題
	健康相談	123 件	身体的健康の問題
	精神的問題	0 件	PTSDなど精神的問題
	介護関係	20 件	介護保険等相談
	家族関係	1 件	DVなど問題
	交通等	14 件	通院や買い物等の問題
	経済関係	30 件	経済的な問題
	交流	86 件	孤立や交流等の問題
	傾聴	42 件	
	その他	67 件	上記以外の問題など
	合計	522 件	
お茶会等イベント活動	交流イベント（他団体共催含む）	176 回/3 カ所	交流会等への援助活動
	参加者数（延べ）	3,475 人	
地域支援活動	自治会等	1 回/1 カ所	地域行事への参加協力
	参加者数（延べ）	200 人	
広報公聴活動		3,330 部	高齢者相談室の活動、イベント等の周知
各種連絡調整会議	行政・サポセン・ボラセン・NPO/NGO等	50 回	行政・サポセン・ボラセン・NPO/NGO等との情報共有
職員研修状況	内部研修	0 回	社協内部研修会実施
	外部研修	9 回	外部研修会への参加

【成果】南郷住宅では二つの高齢者交流サロンも円滑に運営され、清掃活動・植栽等、自治会の活動も着実に行われています。四反田住宅及び田中・九条北住宅では既存の自治会に属し、それぞれに交流会・お茶会・カラオケの会等も企画・運営されました。交流会等の援助活動も適宜行い、見守り・声掛けを含む訪問活動にも計画的に取り組むことができました。また、専門機関との連携や情報共有も適切に行えるようになり、入居者への援助活動の幅を広げることができました。

【課題】高齢化に伴い、体調を崩す入居者が増えています。会えない方や健康面で心配のある方等との関わり方や家賃、通院費用等、経済面での相談が増加している中での対応について検討する必要があります。

【今後の取組】担当地区では災害公営住宅や防災集団移転先への入居がほぼ終了しました。これまでと同様に専門機関や他の支援者と協力・連携し、入居及び自立再建された方の安心・安全な日常の確保に努めます。また、計画的な訪問と巡回、丁寧な相談業務の実施はもとより、隣近所が支え合う関係づくりを積極的に援助していきます。

【決算】事業活動収入 11,269,492円

事業活動支出 11,269,447円

当期資金収支差額 45円

(4) 気仙沼市北部地域包括支援センター

【概要】唐桑地域及び鹿折地区の高齢者に関する介護や健康、認知症、高齢者虐待に関する相談に関して、訪問や面談、電話で対応するとともに、必要な場合には関係機関と連携し、解決に向けた支援しました。

【実績】

月	実数	対応方法			対応理由区分							
		訪問	面接	電話	認知	権利擁護	介護	生活	ケアマネ支援	予防総合	契約のみ	その他
4	70	57	13	85	36	0	20	12	15	21	6	45
5	84	58	18	69	32	8	35	14	9	13	8	26
6	72	58	15	52	38	0	30	9	4	9	4	31
7	80	48	22	71	40	0	25	16	7	9	8	36
8	73	48	36	104	25	24	61	8	18	11	4	37
9	68	34	19	64	18	6	29	21	14	5	4	20
10	81	49	30	67	26	4	51	8	7	18	5	27
11	63	50	14	63	27	0	34	8	5	14	2	37
12	86	44	29	97	27	16	45	8	7	12	6	49
1	99	66	42	74	27	15	40	17	4	16	8	55
2	94	73	28	77	21	8	82	12	11	16	2	26
3	83	55	32	55	16	13	29	22	9	14	3	36
合計	953	640	298	878	333	94	481	155	110	158	60	425
前年度	950	679	243	898	271	74	429	165	101	223	104	453

【研修・会議等参加状況】

月 日	主な会議・研修会等	開催場所
平成29年4月18日	認知症キャラバンメイトスキルアップ研修会	気仙沼市役所
5月19日	地域包括ケアネットワーク推進会議	気仙沼市役所
6月28日	気仙沼管内認知症地域ケア推進会議	気仙沼保健福祉事務所
6月～7月	主任介護支援専門員更新研修	仙台市
6月23日	宮城県生支援コーディネーター養成研修	気仙沼保健福祉事務所
6月24日	宮城県ケアマネジャー協会総会、記念講演	すこやか
7月12日	気仙沼市地域包括支援センター運営協議会	気仙沼市役所
7月19日	宮城県地域包括支援センター課題別研修会	宮城県庁
7月27日	認知症の排泄を考える研修会	気仙沼市役所
8月9日～10日	認知症地域支援推進員研修	仙台市
8月～9月	介護支援専門員更新研修	宮城県庁
9月13日	気仙沼市介法協居宅介護支援部会研修	気仙沼市役所
11月2日	宮城県地域包括支援センター課題別研修会	仙台市
11月22日	気仙沼市立病院地域連携室活動報告会	気仙沼プラザホテル
11月30日	気仙沼市地域包括ケア推進協議会	気仙沼市役所
平成30年1月12日	気仙沼市地域包括支援センター運営協議会	気仙沼市役所
2月3日	認知症予防講座	気仙沼市役所
3月24日	気仙沼市地域包括ケア推進協議会総会	気仙沼市役所

【成果】在宅医療介護フォーラム「高齢者を支える医療・介護を学ぶ集い in 唐桑」の開催に向けて、事務局として取組み、唐桑地域の医療機関、介護事業所、行政の多職種連絡会として開催することができました。また、「認知症ケア研修会」を開催し、介護家族や介護職員が「具体的な認知症のケアの方法」についての研修に合わせ、介護家族の交流会を行いました。さらには、認知症総合支援事業として認知症サポーター養成講座を開催し、サポーターを養成し理解に努めました。

(平成29年度 介護報酬目標達成度 107% 前年度 105%)

【課題】高齢者と何らかの障害を持つ世帯への支援が増えています。地域の関係者と連携し必要時に「地域ケア会議」を開催し、課題検討しながら協力して支援して行く必要があります。

【今後の取組】平成30年度は、「認知症カフェ」を開催し、住民と専門職の出会いの機会作り、認知症家族交流会や認知症サポーターの活動支援等を通して、普及啓発に努めます。

また、平成29年度から開始した生活支援体制整備事業の推進に向けて、地域支え合い推進員と連携し、地域住民を主体とした取組みの必要性について普及啓発を図ってまいります。

【決算】	事業活動収入	28,516,300円	事業活動支出	28,240,557円
			その他の活動支出	1,320,000円
			当期資金収支差額	-1,044,257円
			(前期末支払資金残高から充当)	

（５）気仙沼市南部地域包括支援センター

【概要】本吉地域の、高齢者の実態把握に努め、保健・医療・福祉関係機関と連携し、身寄りのない方の終末までの支援に関わりました。認知症サポーター養成講座等事業を通して認知症予防、啓発に努めました。

【実績】

月	実数	対応方法			対応理由区分							
		訪問	面接	電話	認知	権利擁護	介護	生活	ケアマネ支援	予防支援	契約のみ	その他
4	76	47	19	62	10	9	18	15	4	15	8	49
5	74	65	13	58	21	1	27	24	2	15	7	39
6	79	65	22	73	27	0	40	8	2	21	6	56
7	83	51	16	92	27	0	56	7	7	12	7	43
8	85	75	23	79	21	2	59	21	6	19	6	43
9	80	65	24	117	21	1	34	33	7	27	3	80
10	74	48	26	42	12	2	39	20	6	12	8	17
11	68	50	23	68	16	0	64	11	2	19	6	23
12	92	68	23	129	3	1	104	19	6	35	3	32
1	81	71	27	125	63	0	83	25	11	11	3	27
2	73	58	29	83	21	0	53	22	13	43	3	15
3	81	45	28	84	33	5	46	22	10	16	4	21
合計	946	708	283	1012	302	21	623	227	76	245	64	445
前年度	932	715	267	834	230	130	343	210	61	242	113	275

【研修・会議等参加状況】

月 日	主な会議・研修会等	開催場所
6月13日～14日・20日～21日	主任介護支援専門員更新研修	東北福祉大学
6月27日	介護予防支援従事者研修会	宮城県庁
7月19日	宮城県地域包括支援センター職員等課題別研修会	宮城県庁
7月19日	宮城県地域包括支援センター職員等課題別研修会	宮城県庁
8月9日～10日	認知症地域支援推進員研修会	仙台市TKPガーデンシティ
8月13日～14日・27日	介護支援専門員更新研修	宮城県庁
	福祉サービスの苦情解決に関する研修会	アエル
11月2日	宮城県地域包括支援センター課題別研修会	エルパーク仙台
11月9日	第2回宮城県地域支え合い生活支援推進連絡会議	登米市合庁
11月18日～19日	認知症初期集中支援チーム員研修会	TKPガーデンシティ
1月31日	復興期の心のケア研修会	気仙沼福祉事務所
2月23日	権利擁護研修会	気仙沼市役所
3月7日	第3回津谷地区社協推進会議（先進地視察）	登米市社会福祉協議会

【成果】認知症懇談会で、認知症ケア専門士より認知症の病気や対応方法等を2回に分けて学び、日頃の疑問や困っていることを一緒に考え、認知症対応について懇談しました。在宅療養者の防災対策研修会を3回開催し、各事業所間でも防災に対する意識強化が図られました。

【課題】認知症高齢者が増えており、認知症の方の車の運転が心配な状況であり、地域や関係機関と連携し、認知症の方を地域で見守る体制強化を図る必要があります。

【今後の取組】認知症になっても安心して地域で暮らせるよう、地域や関係機関と連携しケア会議等で情報共有を図ります。また、より大勢の方々に認知症への理解が得られるよう認知症サポーター養成講座や地域での講話の継続により、啓発活動を進めます。さらに認知症カフェを開催し、認知症の方や家族が集え地域で認知症の理解ができるようにするとともに、健康講話等で介護予防の必要性を伝えていきます。

【決算】事業活動収入	28,068,808円	事業活動支出	26,548,110円
		その他の活動による支出	1,335,754円
		当期資金収支差額	184,944円

(6) 津谷在宅介護支援センター

【概要】本吉地域（津谷、大谷地区）の高齢者の総合相談窓口として、訪問等による相談や実態調査を実施し、生活課題の早期把握や早期支援に努めました。

【実績】

1 実態把握業務

区分別調査件数	実態把握件数		
	年度初回	2回目以降	合計
訪問	88	1	89
来所	0	0	
合計	88	1	89
前年度	87	0	87

2 活動実績内訳

訪問目的内訳		訪問		来所のみ	
		実数	延数	実数	延数
に包 よ括 るの 訪 問 頼	在介実態把握	88	89	0	0
	在介経過観察・見守り	0	0	0	0
	サービス未利用者実態把握(要介護者)	0	0	0	0
	サービス未利用者実態把握(要支援者)	0	0	0	0
	二次予防事業実態把握	0	0	0	0
相 談 に よ る 訪 問	家族	0	0	0	0
	本人	0	0	0	0
	民生委員	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
合 計		88	89	0	0

支援内容内訳		訪問		来所のみ	
		実数	延数	実数	延数
介 護 保 険 適 用	介護保険認定申請支援	3	3	0	0
	居宅介護支援事業所紹介			0	0
	施設入所支援	0	0	0	0
	福祉用具購入	0	0	0	0
	住宅改修	0	0	0	0
地域包括支援センターへ				0	0
他制度利用支援		0	0	0	0
要経過観察		88	89	0	0
二次予防事業への参加意向の有無 訪問型		0	0	0	0
通所型		0	0	0	0
救急医療情報キット配付		16	16	0	0
合 計		107	108	0	0

【成果】実態把握や相談業務により、高齢者の生活課題の早期把握とともに必要な支援に向けた関係機関等との連携が図られました。

【課題】効果的な事業運営が求められます。

【今後の取組】独居や高齢世帯、認知症の高齢者など地域との関わりをさらに強くしていく必要があることから、対象者の意識啓発と併せ、地域包括支援センターや民生委員等との連携を強化しながら取り組みを進めます。

【決算】事業活動収入 585,476円 事業活動支出 585,476円

生活支援型食事サービス	【概要】虚弱な高齢者の単身世帯等を対象に、生活を支える「食」の確保を図りながら安否確認と自立支援を行うとともに、利用者とその家族の身体的・精神的な負担の軽減を図ることを目的として、毎週火・木・金曜日のうち週1～2回の利用ができるものとし、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、ボランティア等の協力を得て実施しました。 【実績】 気仙沼地域 利用者：71人 配食数：2,846食 唐桑地域 〃 : 12人 〃 : 658食 本吉地域 〃 : 25人 〃 : 690食 利用者合計：108人 配食数合計：4,194食 【成果】緊急対応ケースはありませんでした。一人暮らしの利用者が多いため、民生委員児童委員やボランティア、配達職員の訪問を楽しみにしている方も多いようです。 【課題】協力者の継続的な確保が必要です。また、高齢者向け弁当の配達を行う民間業者が増えている中、本会として受託の継続について、実施方法等含めて検討する必要があります。 【今後の取組】本吉地域に於いては、週1回から週2回の実施へ向け調整中です。また、30年度以降の事業実施を検討するとともに、委託元の地域包括支援センターと話し合いの場を設けます。 【決算】3,229,714円
生きがい活動支援通所事業（元気老人デイサービス事業）	【概要】おおむね65歳以上の高齢者を対象に、本吉保健福祉センター及び地域集会所等において、生きがい活動援助員による通所サービスを提供することにより、社会的孤立感の解消や自立生活の助長及び要介護状態となることの予防を図りました。 【実績】 延利用回数 : 247回 延利用者数 : 3,251人 【成果】個人の状態に合わせた多様なプログラムを丁寧に説明しながら支援したところ、苦手だった利用者も参加し新たな楽しみが増えた様子でよりモチベーションアップに繋がりました。 【課題】好奇心をもってチャレンジできるようなプログラムを考え、一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう支援していくことが必要です。 【今後の取組】サービス提供終了後、職員間での振り返りを密に行い、利用者自身がより楽しく充実した時間が過ごせ、満足感を高められるような支援に取り組みます。 【決算】7,326,444円
家族介護者交流事業（本吉地域）	【概要】高齢者を介護している家族に対して、日帰り温泉等で介護者相互の交流を通し、介護者を介護から一時的に開放することにより、参加者の心身のリフレッシュを図りました。 【実績】7月22日（土）黒滝温泉 のぞみの湯 参加者18人 12月6日（水）金成温泉 延年閣 参加者20人

	【成果】介護者同士の交流により、日頃の悩みをお話しし、リフレッシュに繋げることができました。 【課題】実施曜日を変えたり、行き先も「いつもと違う場所が良い。」という意見もあり、場所の選定についてもさらに検討が必要と感じました。初めての参加者も多く、今回はデイサービスからの周知で参加された方や以前に参加した方から誘われて参加された方もいました。他の事業所のケアマネからの周知が少ないと感じていました。 【今後の取組】事業周知はケアマネによるところが大きいですが、その他の介護事業所や市広報などに計画的に掲載することで幅広い周知を進めます。ひとりでも多くの方に参加していただき、リフレッシュできる時間を設けることができるよう事業の充実を図っていきます。 【決算】153,400 円
家族介護教室事業	【概要】高齢者を介護している家族等に対し、家族介護教室を開催することにより要介護高齢者の状態の維持・改善を図るとともに、在宅生活の質の向上を図りました。 【実績】6月16日 「みんなが安心して暮せる地域」認知症の方を地域で 支えあい見守る事の大切さについて 参加者28人 11月16日 「健康はお口から」肺炎予防と口腔ケアについて 参加者23人 【成果】認知症は、加齢とともに誰もがなり得ることであり、他人事ではなく身近なことであり、徘徊で行方不明となってしまう高齢者にも焦点をあて、認知症のメカニズムや症状、寸劇を通して「認知症になっても、この地域で安心して過ごすことができるような体制を自分達がつくりあげる」という認識に立ち、認知症の方への対応方法をはじめ、地域づくりの大切さを学ぶことができました。2回目の口腔ケアについては、わかりやすく「さっそく今日から始めたい。」など意欲的な意見も聞かれました。 【課題】本会以外の他の居宅介護支援事業所利用者の参加も数人あり、さらに他事業所への周知を強化し、多くの方の参加に繋げていくことが必要です。 【今後の取組】介護者の興味のもてる内容と、現在の介護者が抱えている問題等をケアマネジャーからも聞き取りながら企画立案するとともに、周知方法を工夫し参加者増を図っていきます。 【決算】53,676 円
外出支援サービス事業	【概要】リフト付車両及びストレッチャー装備ワゴン車等により、利用者の居宅と在宅福祉サービスを提供する場所及び医療機関等との間の移動を支援しました。

	【実績】 延利用者数 25人（実利用者2人） 延利用回数 50回（自宅から目的地までの片道を1回でカウント） 【成果】 リフト付きの車両での送迎が必要な方の定期的な通院時の移動支援の一助を担うことができました。 【課題】 利用条件の制限により実利用者数は現状で2人となっており、減少傾向にあります。また、気仙沼市からの委託事業ですが、市内での介護タクシーが普及している状況であることから、事業のあり方について気仙沼市と協議する必要があります。 【今後の取組】 今後の事業運営について、委託者である気仙沼市と協議を継続することとしておりますが、それまでの間は効果的な事業となるよう取り組みます。 【決算】 43,245 円
大谷学童保育事業	【概要】 日中、留守家庭等により保育が困難と認められる小学生を預かり、保育する目的で学童保育事業を実施しました。通年での土曜日開所及び長期休業並びに一時預かりも周知徹底され、様々な開所区分での保育運営を行いました。 【実績】 対象児童：留守家庭の小学1年生から6年生まで 登録児童数：32人 延開所日数：289日 通常利用延人数：5,800人 短期利用延人数：171人 【成果】 小学校の担任教諭との情報交換を行いながら、児童及び各家庭の状況把握に努めてきました。また、児童の様子を保護者に伝え、家庭との連携、助言に対する共通認識を図り、保護者が安心して児童を預けられるよう努めてきました。小学校下校時の避難訓練に学童保育として積極的に参加し、緊急時の避難方法など小学校との連携も強化しました。職員が交代で従事することから、情報の共有とより良い保育を行うための打ち合わせや定期的な職員会議を行い、共通認識を図ってきました。学年差や年齢の違いを認識しながら、各種催しについて職員間で話し合い、児童が積極的に関わり楽しめるような企画と実行に努めてきました。 【課題】 保護者の子育て観の変化や要個別対応児童が増加していることに伴い、一人ひとりへの丁寧な対応が必要不可欠になっている状況です。児童及び保護者との信頼関係を基礎に、保護者と児童という総体をけん引する力量と個々の児童の様子を細やかに把握、対応することが必要になっている中、職員の質の向上と児童及び保護者との信頼関係を構築することの難しさが挙げられます。 【今後の取組】 個別の配慮が必要な児童が増えていることから、職員一人ひとりの気づきと思考、積極的に関わる質の向上に努めます。職員一人ひとりが意識向上を図るため自己研鑽をはじめ、様々な学びの機会に積極的

	に参加できるよう取り組みます。学童保育ならではの異年齢児同士の関わりを大切に捉え、各種催しやイベントを企画し、地域や各関係機関との様々な交流も取り入れながら、児童が積極的に楽しんで取り組めるようにしていきます。 【決算】 8,553,374 円
生活支援体制整備事業	【概要】 互助を基本とした地域の多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を推進するとともに、支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、支え合いの体制づくりの充実・強化を図ることを目的とします。地区担当職員（地域支え合い推進員）を配置し、支え合いの地域づくりを推進します。 【実績】 自治組織代表者会議に出席 地区社協会長会議にて事業説明 地区住民懇談会等にて事業説明（12地区社協） 第1層協議体（地域包括ケア推進協コミュニティ・生活支援部会）出席 地域支え合い協力員の配置（4地区社協7人） 地域支え合い推進員・地域支え合い協力員合同研修会の開催（1回） 地域支え合い推進員連絡会議の開催（4回） 随時、地域で開催の交流会等への参加・各種打合せと情報収集 【成果】 生活支援体制整備事業は、本会が推進してきた小地域福祉活動と目的が合致することから、地域福祉の推進と捉え、職員が地域に入る姿勢と体制を整えることができました。それにより、地域に出向いての事業周知活動に併せ、地域の活動状況や課題把握等を行うことができました。 【今後の取り組み】 住民懇談会はもとより、地域や団体の集まりに出席し事業の理解促進と参画を促進します。また、地域支え合い協力員と協働し、地域福祉活動の視覚化と第2層協議体の設置についても検討を進めます。 【決算】 4,680,000 円

15. 団体事務

事業名	内 容
気仙沼市民生委員児童委員協議会	【概要】市民児協事務局として、団体会務に係る外部機関との連絡調整から各地区民児協及び委員への情報提供等を行いました。 【実績】役員会 3回（4月、10月、3月） 総会（6月） 監査会 1回（4月） 【成果】民生委員制度創設100周年の節目であることから、市の協力による制度周知等の取り組みを行ないました。さらには、新しい制度等の情報提供など積極的に民児協活動を支援しました。 【課題】組織構成にある部会活動について、委員主体の活動であります十分に取組まれておらず、活動活性化に向けた取り組みが今後の課題です。 【今後の取組】市民児協として、単位民児協が円滑な運営を図れるように、市担当部署等関係機関と連携を密にして取り組みます。
本吉ブロック民生委員児童委員協議会連絡協議会	【概要】本吉ブロック民児協（構成：気仙沼市民児協・南三陸町民児協）の事務局として、団体会務に係る外部機関との連絡調整をしました。 【実績】なし 【成果】ブロック管内での相談支援の資質向上や諸制度理解に向けた研修機会の確保に向けて南三陸町民児協事務局と連絡調整を進めました。 【課題】南三陸町民児協事務局との日程調整が難しく、理事会等を開催することができませんでしたが、 【今後の取組】南三陸町民児協と連携を密にして、民生委員活動における課題を共有しながら有用な研修機会を作っていきます。
気仙沼市共同募金委員会	【概要】共同募金委員会事務局として、住民への募金に関する理解や募金運動に関する支援、団体会務に係る外部機関との連絡調整等を行いました。 【実績】 監査会 1回（7月） 理事会 2回（7月、3月） 評議員会 2回（7月、3月） 配分調査委員会 2回（12月） 【成果】地区奉仕員及び自治会長を中心として、広く住民に共同募金の趣旨の理解を得て、前年度とほぼ同額の募金協力を得ることができました。また、宮城県県共募助成事業の幅広い周知により、市内各地で助成金を活用した地域活動が展開されました。 【課題】宮城県共同募金会の取り組み方針に基づいて運営を行なっていますが、効果的な募金運動展開を図るための事務経費を十分に確保できない状況にあることから、次年度以降の事業運営に向けて引き続き県共同募金会と協議が必要です。 【今後の取組】共同募金の趣旨と協力の継続や拡大を図るための広報活動

	の検討を進めると共に、配分方法についても深く研究しながら、市民の善意が効果的に配分活用されるよう、団体会務を支援します。
気仙沼市ボランティア連絡会	【概要】市内のボランティア団体をもって組織し、各団体の育成と連携・協力を図り、ボランティア活動の推進に寄与することを目的としており、現在は、旧気仙沼地区と唐桑地区の計12地区ボランティアクラブから構成されています。 【実績】総会、監査会、役員会（5回開催）、他団体会議への出席、他団体活動への参加協力、研修会、新春懇話会、広報紙の発行等 【成果】情報の共有や連携を図ることにより、活動の幅が広がり活動の質の向上に繋がっています。 【課題】30年度に役員改選時期となることから、新たな組織体制の整備が必要です。 【今後の取組】地域のボランティア団体の円滑な連携や県内のボランティア団体との交流を図り、より充実したボランティア活動の推進に繋がるよう努めます。
気仙沼市老人クラブ連合会	【概要】老人クラブ活動の活性化を図り、市老人クラブ連合会事務局の適正な運営に努めました。 【実績】会議等（総会1回、定例理事会6回、監査会1回、専門部会6回、市高齢者事業運営委員会4回、研修会5回、関係大会4回） 【成果】多くの研修会に参加することにより、今後の活動について検討することができました。また、女性部の交流会を通し、各地区の情報を共有することで活動の幅が広がり、地域力の向上に繋がっています。専門部を効果的に開催することで、行事等の活動がスムーズに行えるよう支援しました。 【課題】専門部（総務部・健康体力づくり部、交通安全部・女性部）の活動が自主的に運営できるよう検討が必要です。また、高齢化による会員の減少が課題です。 【今後の取組】現状に即した事業企画や目的を確認しながら引き続き支援するとともに、関係機関の協力を得て、地区研修会を開催し、会員の教養の向上が図られるよう支援に努めます。また、新しい老人クラブ世代の多種多様な活動に対応できるようなリーダーの育成と連合会活動の充実に努めます。
本吉町老人クラブ連合会	【概要】関係機関と連携し、自主的運営による全国三大運動（心と体の健康づくり、友愛活動、社会奉仕活動）の積極的な推進と活性化を図りました。 【実績】会議等（総会1回、監査会1回、単位クラブ会長会議3回）、室内体育大会等健康づくり関係事業3回、芸能交歓会、リーダー移動研修、女性部交流・研修2回、関係大会

	【成果】計画事業の未実施が多かったというこれまでの反省を踏まえ、総会時に計画事業に期日を盛り込み、年間計画により事業を進めることとし、予定どおり実施しました。 事業実施後の課題と反省を単位クラブ会長会議で出し合い、次年度に繋げるとともに、当事者意識を持ち運営に向き合えるように工夫しました。 【課題】会員層の高齢化に伴い、単位老人クラブ運営が困難になってきており、29年度中に3クラブが解散しました。今後のクラブ運営の在り方を見直す時期にあり、さらには、新会員の加入促進が課題となっています。 【今後の取組】単位クラブ会長会議等に今後の連合会活動の方向性を提案し、幅広い年代に対応できるよう多種多様な魅力ある活動内容へと見直しを図っていきます。
本吉地区遺族会	【概要】遺族会として友愛の精神で互いに助け合い、福祉の増進に努め、戦没者諸英霊の祭祀を厚くし、関係機関と連携強調することにより、後世にわたって平和の尊さを認識してもらえよう意識しながら事業を推進しました。 【実績】会議等（総会1回、監査会1回、役員会4回） 本吉地域忠霊塔改修工事完成記念式典開催 気仙沼市戦没者追悼式参列 【成果】震災以降の懸案事項であった本吉地域忠霊塔の改修工事が昨年度完了し、今年度完成記念式典も開催したことで会員に対する会の周知になり、先祖を敬う気持ちの高揚に繋がりました。 【課題】会員の高齢化と戦後の年数経過により先祖を敬う気持ちの薄れ等による会員の減少が進んでおり、組織運営についての検討が必要な状況にあります。 【今後の取組】役員が中心となり様々な機会に会員の減少を防ぐ呼び掛けをはじめ、組織の班再編や世話役の確保等の取り組みを継続して行っています。